
修羅（九→銀）

退無

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

修羅（九↓銀）

【Nコード】

N1565E

【作者名】

退無

【あらすじ】

気付くと、熱い胸の内。「通リゃんせ」の唄が聞こえる。君が隣にいる。

もしかしたら僕はあんな

「男」好きになったのかもしれない。

「九ちゃんどうしたの？ 最近様子が変よ」

「いや……。ただちょっと、むずがゆいだけだ」

胸の辺りが。ギュウツと苦しくなる。あの男を思い出すとそうなる。

僕は病気なのだろうか。

妙ちゃんに相談しようか。いや妙ちゃんに心配かけたくない。かといつて東城は論外だし。

……これは僕の問題だ。自分で解決しよう。

「よ、九兵衛か」

公園をぶらりとしていたら聞き覚えのある声に話しかけられた。顔を上げるとやはりそれはあの男だった。

「君か」

「久しぶりだな」

確か

「合コン」の時以来だったか。

「こんな所で何してんだ？」

「それはお互い様だろう。僕は散歩だ」

「俺はなあ……時間潰し」

奴は自嘲気味に笑った。

「ま、お互い暇って事だな」

近くにあったベンチに二人して座る。……何事か、心臓が熱い。心音も激しくなっている。

まただ。

「どうした？」

僕の異変に気付いたのか顔を覗き込んでくる。何と紅い瞳だろうか、一瞬見取れてしまった。

「！……いや何でもない」

「……？ ないーけど」

公園では子供達が鞠をついたり鬼ごっこをして遊んでいる。どこからか

「通りゃんせ」の声がした。

「……通りゃんせ」

「ん、あー……あそこでやってら通りゃんせ」

奴は指を指して示した。

「僕も昔したな妙ちゃんらと」

「俺は……」

そこで奴は黙ってしまった。僕は不安になり話しかけた。

「おい、どうした」

「悪イ悪イ。ちよつとな」

そう軽くあしらわれる。少し、ムツときてしまった。所詮僕は顔見知り程度の存在。それが何だかむずがゆい。

「九兵衛、あれから色恋沙汰はあったか？」

ニヤニヤとからかうように言う。余計に腹立たしい。

「……無い」

「あらら」

「僕は女を棄てたんだ」

キツパリと言った。色恋とか流行りものとかそういう物も僕には手が届かない。

奴は溜め息をつき

「……でもお前はお前だろ？」

僕は僕？

奴の言葉を反芻した。

「だから本当のお前は死んでも棄て切れねえよ。お前なんだから」

生きは良い良い還りは怖い。怖いながらも……

遠くから通りゃんせが聞こえる。その唄は余計に僕の胸を焦がした。

焼け付くようだ、

「……なあ、」

「何だ」

「名前……で、呼んでも良いか？」

やっと分かった。僕を苦しめていたものの正体。阿修羅の炎。滲み出てくるこの感情こそ。

奴は柔らかに笑い、

「お好きにどうぞ」

「ぎゅ、」

ぎんとき。

焼け付く想いに僕は憂いを募らせる。

それは

そこはかとなく

甘い香り。

（後書き）

修羅の歌詞をイメージしてみました。感想、評価を頂けると嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1565e/>

修羅（九→銀）

2010年12月14日15時23分発行